

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日:令和5年2月20日

事業所名:ぴすかぴすか

保護者の評価欄の(数字)の説明:達成率、はい/母数、信ぴょう性、わからない未回答を除いた数/総数

※80%以上:達成、79%~60%:ほぼ達成、60%未満:未達成 わからない、未回答は母数に入れず。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	活動に応じて子ども同士が快適に過ごせる様に室内スペースの使い方を工夫しています。また、感染症対策として随時窓を開けるなどの配慮をしています。	アンケート結果としては、目標はほぼ達成との評価をいただいています。 (75%・18/24、82.8%・24/29)	利用人数の増加に伴い、利用スペースが足りないと感じる事もありますが、安全や動線を考え、過ごすスペースの確保に努めます。また、利用児に対し、1対2以上の配置で対応しており、安全に配慮しながら、子どもの目線で丁寧に子どもに関わることができる様に体制を整えます。身体的なバリアフリーに関しては、問題なく達成しています。心のバリアフリーという点では、視覚支援などの構造化や個別に配慮した提示や対応をしていますが、さらに子どもに合わせた環境を整える事が出来る様、更なる改善をしていきます。清潔に関しては、換気・消毒・滅菌を徹底して実施しており、引き続き感染症対策に努めるとともに、活動に合わせた環境設定をしていきます。
	2 職員の適切な配置	放課後等デイサービスの配置基準よりも手厚い人員配置をして、安全に配慮しながら適切な支援が出来る様、体制を整えています。	アンケート結果としては、目標達成との評価をいただいています。 (100%・22/22、75.9%・22/29)	
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	1階スペースを利用しており、玄関以外はほぼフラットになっています。また、視覚支援を活用し、利用者個々に合わせた伝達に配慮しています。	アンケート結果としては、目標達成との評価をいただいています。 (95.2%・20/21、72.4%・21/29)	
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	清掃や次亜塩素酸ナトリウムによる消毒のほか、UVC殺菌用ライトによる送迎車や療育室の滅菌を実施しています。	アンケート結果としては、目標達成との評価をいただいています。 (100%・27/27、93.1%・27/29)	
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	月に複数回実施される定例会や支援会議を通じて、日々の業務やプログラム、支援に関する事を随時話し合い、取りまとめています。		業務や支援に関し、職員間で認識が統一できるように会議を随時実施しています。その中で、目標設定を実施したり、実施事項の振り返り、目標の修正などもしています。また、施設運営に関与していると実感できるように随時話し合いをしています。第三者評価ではありませんが、リタリコなどを活用し、随時あり方を確認したり、行政など関係所掌へ確認しながら業務を進めています。療育の質を高めたり、あり方を考えるためにも随時研修には参加していきます。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	第三者を介した客観的な視点からの評価受けは実施していませんが、随時行政であったり、リタリコに確認して業務に邁進しております。		
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	今年度はオンラインが主ではありましたが、職員全体で受講するもの、個々に受講するものと分けて受講しています。		

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供	1	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	こどもと実際に関わったり、ご家族及び学校や事業所等の関係機関からの情報をもとに職員間で確認し、計画を立案しています。		日頃からのご家族やこどもとの関わりを大切にしながら、個別支援計画に基づき、支援を提供しています。特に利用開始時には、ご家族との面談で得られた情報とこどもと実際に関わった時の様子を合わせて個別支援計画を作成しています。計画にも反映していますが、得意の種に水を上げようというコンセプトの下、肯定的に関わり、良いところを伸ばす事で、苦手な部分も克服していけるように支援しています。慣れるところから徐々に参加できる部分を増やし、個別活動・集団活動を通じてこども同士関わる機会を設けています。また、平日ではじっくり関与しにくいところを土曜日の個別にて生活の部分であったり、コミュニケーションについて取り組んだり、小集団で共同で何かをするという事に取り組む事で平日の支援等の資になるようにしています。また、本事業所の強みであるドローンの操作を通じて興味を引き出し、状況によりプログラミングの足掛かりとなる部分に取り組むなど特色のある支援も実施しています。活動プログラムについては、担当が素案を作成し、会議に諮る中で職員全体の意見を吸い上げ、大まかな実施事項を決めています。この際、こどもの成長・発達に合わせた支援となるように工夫し、提供できるように細部を考えています。また、ご家族やこどもの意見を時折伺いながら反映できる様にしています。
	2	子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	支援計画の各別目標に対し、個別と集団での目標を記載し、それぞれのねらいを記載しています。活動も個人の状況に応じて設定しています。	アンケート結果としては、目標達成との評価をいただいています。 (100%・29/29、100%・29/29) (96.3%・26/27、93.1%・27/29)	
	3	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	各領域に係る項目に関して、あるべき姿を示しています。また、支援内容も方向性を示しています。		
	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	個別支援会議にて、ご家族・地域を含めた支援内容について共有し、日々の話し合いの中で、細部の状況を共有しています。また、活動ごとに関与の度合いが異なるため、都度、確認して支援しています。	アンケート結果としては、目標達成との評価をいただいています。 (96.3%・26/27、93.1%・27/29)	
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	時宜に応じた活動内容を選択するとともにご家族やこどもの意見を取り入れながら、随時必要な支援を職員全体で共有しながら立案しています。		
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	平日は、学校帰りである事から余暇も含めたプログラムを実施し、遊びの中で関わりが増える様にしています。休日は、テーマを設定して、個別・集団など普段出来ない事に挑戦しています。	アンケート結果としては、目標達成との評価をいただいています。 (100%・28/28、96.6%・28/29)	
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	毎月、複数回、担当ばかりでなく、職員会議にてプログラム内容の立案や精査を実施しています。当事業所の特徴であるドローンを含め、創作活動や茶道など様々な取組をねらいを変えて実施しています。		
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	週案にて前週に人員配置の確認を担当で実施した後、月曜日に1週間の流れを職員間で共有。毎朝、その日の支援について朝礼にて職員と確認し、昼礼にて、非正規職員を含め確認しています。		

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供(続き)	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	支援終了し記録を終えた後、支援及びそれ以外の事を終礼にて確認。その日の支援を振り返り、支援の課題や方針などを共有し、今後の支援に活かしています。		記録・ミーティングは毎日実施し、こどもやご家族の情報共有に努めています。支援の振り返りをして次につながるよう、引き続き全体で情報共有を行いながら、支援を提供していきます。定期的なモニタリングについては、面談などを通じて行う他、送迎や電話・メールなどを含めた日々の関わりの中で行い、個別支援計画に反映させています。
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	集団は、連絡帳を兼ねて日報に添付する書類にプログラムとその他の活動に分けて様子を記述。個別は、課目ごとに記載しています。普段の会議や職員会議、支援会議などで情報を共有しています。		
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	法令に基づき定期的に面談・会議・支援の見直し・計画の立案・修正を実施しています。状況により、6か月未満でも面談・会議をして支援の見直しをしています。		
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	児童発達支援管理責任者がこどもの状況が一番よくわかる職員が会議には参加する様にしています。相談支援専門員とは必要に応じて随時連絡し、連携できるように心がけています。		現状、ご家族を通じて園や学校、児童発達支援の事業所でのこどもの様子を伺っています。支援の方向性を合わせ、こどもに合わせたより良い支援をしていくため、会議には必要な専門性を持った職員が参加しています。移行支援については、園から学校などの情報共有はしています。卒業時の情報提供などは、今までは対象が居なかったものの、今後は年齢が上がり、移行の対象が増えてくることも予想されるため、対応出来る様に準備していきます。医療ケア児や重症心身障害児に関しては、当施設では受け入れる能力としての職員であつたり施設の整備は出来ておりません。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	現状、ご利用はありません。		
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	現状、ご利用はありません。		
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	相談支援の事業所からの情報提供と状況により必要であれば、児童発達支援の事業所と調整して連携しています。しかし、移行支援としては、実施していません。		
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	現状、そのような事例はありません。		

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
関係機関との連携(続き)	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	児童発達支援センターの相談員を通じた支援の継続という意味での連携はしていますが、専門的な見地に立った療育の相談という点では実施していません。研修については、随時受講しています。	療育を主観的に実施せず、客観的な視点で実施するための配慮としては、他事業所を含む関係機関と連携して様子や対応などを必要に応じて共有しています。職員専門的な知識の習得という観点では、行政やリタリコなど様々な方法で研修に参加しています。定型発達の子どもの交流や地域との交流という観点では、「しょうがい」をオープンにしている方が殆どで、アンケート結果では、わからないが多い(21/29)ので実施していません。近隣には、折を見て関わる事で日頃の関係を築いていきます。また、今後の取組として講演会なども実施できればと考えています。
	7	児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	デイへの通所を公にしなかったり、告知をしていない等「しょうがい」を公表したくない利用児・ご家族が中心でニーズが無く、感染症のこともあり外部と一緒にする行事は実施していません。	
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	地域に施設を知って頂くところまでは至っていませんが、近隣とのトラブルが発生しない様、折を見て日頃から関わる機会を持てるようにしています。	
保護者への説明責任・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約時・送迎時など随時必要事項をお伝えしています。また、請求書、通所給付費明細書を毎月お渡しています。質問事項があれば都度説明させています。	契約時には、契約書、重要事項説明書、利用者負担その他情報保全などについて説明しています。また、報酬改定時にも随時説明しています。個別支援計画は直接面談して説明したり、書面を交付してご確認頂きながら同意を得て支援をしています。送迎時や電話・メールなど日頃からのやりとりを通じて、共通理解を図り、支援に活かしています。当事業所での強みであるドローンであったり、シェア畑など親子で参加出来る取り組みを実施しています。今後、保護者会を立ち上げるにあたり、最初の足掛かりとして2023年3月にペアレントトレーニングのイベントを実施します。困り事での具体的な対応を知りたいとのコメントも頂きました。随時、ご家族へのニーズに応える事が出来る様、日々邁進していきます。
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	法令に基づいた時期に面談をするともに、初回では捉えきれない部分を補足するためにも、状況に応じて時期を短縮して面談しています。	
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	土曜日の個別支援などでは、ツールを用いて日常とは異なる場面での親子の関わりが持てる機会を創出しています。	
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	送迎やメール・電話など複数の手段で情報を共有しています。必要に応じ、膝をつき合わせた話も随時実施しています。	
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	ご家族からのご相談に対しては、随時承り、まずは共感してから、対応可能な範囲でご回答させて頂いたり、適宜相談できる場所をお伝えしています。	
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	現状、保護者会などを立ち上げるための取組を鋭意検討中です。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
保護者への説明責任・連携支援(続き)	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情の窓口に関しては、契約時にお伝えするとともに、日頃から送迎時やメール・電話などにて相談できる体制を心掛けています。	アンケート結果としては、目標達成との評価をいただいています。 (85.7%・6/7、43.8%・15/29)	ブログやホームページ及び実施記録を通じて日々の出来事や行事についてはお伝えしています。しかし、今回の事業所評価のご意見で支援中の様子を見たことが無い、毎日何名来ているのかわからないなどの意見を頂戴しました。伝わりにくい事もあるのが判明したため、より伝わりやすいようにしていきます。 また、苦情対応については、わからない(14/29)のご意見を頂いています。ご家族からのご相談には、出来る限り迅速に丁寧に対応出来る様に心がけてまいります。 個人情報の取扱いについては、利用児やご家族ばかりでなく、職員分についても適切に管理する様にしていきます。
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	個別に対応させて頂くとともに、全員に分かりやすい表示や様々なツールを用いて疎通が図れるよう配慮しています。	アンケート結果としては、目標達成との評価をいただいています。 (100%・29/29、100%・29/29)	
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	ブログにて活動をお知らせするとともに、活動の予定や参加については毎月、文書とホームページ等を通じて承っています。	アンケート結果としては、目標達成との評価をいただいています。 (88.5%・23/26、89.7%・26/29)	
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	個人情報に関しては、利用児ご家族ばかりでなく、職員についても法令に基づいて対応しています。	アンケート結果としては、目標達成との評価をいただいています。 (100%・26/26、%・26/28)	
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	感染症や非常事態のマニュアルについては作成し、ご家族には、書面にて配布済みです。また、都度対応の際には確認しています。職員には訓練などを通じて伝えていきます。	アンケート結果としては、目標達成との評価をいただいています。 (92.6%・25/27、93.1%・27/29)	危機管理については、ご家族からこどもの情報を得るとともに研修やマニュアルに基づいた計画及び想定訓練などで実態に即した準備をしています。 ご家族からは、訓練の実施については、わからない(13/29)という意見を頂きました。今後は、実施している事について、ご家族にもお伝え出来るようにしていきます。 虐待については、研修を受講し、支援のあり方について検証しています。 身体拘束は現在実施していません。人権事案に該当するような重要な判断は、重要事項説明書や個別支援計画を通じ、組織的な決定をもって実施していきます。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	法令に基づき、火災や地震、水害などを想定した訓練を定期的実施しています。実働と想定問答を交えて実施しています。	アンケート結果としては、目標達成との評価を頂いています。 (93.8%・15/16、55.1%・16/29)	
	3	虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	今年度は、行政などが実施する研修に代表者が参加し、それを他職員に伝える形で研修を受講しました。研修報告を作成し、それをもとに職員全員で総括し、支援に関する方向性をすり合わせました。		
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	現状、身体拘束は実施していません。しかし、重要な事項については、ご家族に説明・同意を得てから、職場内で組織的に決定していきます。		

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応(続き)	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	契約時にアレルギーについてアセスメント用紙に記入いただき、おやつに関する事項は把握し、クッキングをする時には都度確認させて頂いています。		アレルギーに関しては、契約時にアセスメント用紙にご記入いただき、食に係る活動の際には、ご家族やこどもと相談しています。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	日々のミーティングや会議において、起こった事は共有しています。再発防止のため、対応策を考えていきます。書面にて保管していますが、事例集の作成には至っていません。		事故報告やヒヤリハットに関して、日頃のミーティングを通じて、職員間で共有しています。今後もしっかりと書面に残していきます。
満足度	1 子どもは通所を楽しみにしているか	得意の種を見つけ、それに水を上げようという事で、こどもの持つ良い部分を伸ばす事を意識して、肯定的な関わりをベースに支援して来ました。	行ったら行ったで楽しんでいる、毎回楽しみにしているとの意見を頂きました。 アンケート結果としては、目標達成との評価を頂いています。 (93.1%・27/29、100%・29/29)	ご家族からは、満足している等のご意見とともに実際の支援を見る機会が少なく、どのように評価してよいか分からないとの意見も頂きました。引き続き、子どもやご家族に信頼頂けるよう、支援に邁進するとともに、支援内容をより詳しくお伝えできるようにしていきます。
	2 事業所の支援に満足しているか	当事業所の強みであるドローンを筆頭に体験型の放課後等デイサービスとして、自分では選ばないであろう事にも挑戦していけるような活動を考えて運営しています。	アンケート結果としては、目標達成との評価を頂いています。 (96.6%・28/29、100%・29/29)	